

発刊に寄せて

日本陸水学会近畿支部会の立ち上げをめぐる

谷田一三

日本陸水学会の支部会としては、1968年に発足した甲信越支部会が長い歴史と活発な活動を誇っていた。東海支部会の発足は1998年だという。それに先立つ1990年当時、近畿支部会を立ち上げようと画策したのは大阪教育大学(当時)の三田村緒佐武さんと記憶している。したがって、本会は日本陸水学会の支部会としては、二つ目の支部になる。私は、三田村さんに頼まれて、まだ完成してそれほど経っていなかった大阪府立大学の学術交流会館を、第一回の支部会の会場に用意した。フラットな多目的ホールは、最大定員300名程度で、国内外の中小規模の集会受到に活用されるようになっていた。ちなみに、2003年にはこの会場で国際トビケラシンポジウムも開催した。この会場は、会場費も不要、ロビーを使って簡単なパーティーもできるということで、その後も8回(1997年)、17回(2006年)、20回(2009年)と、支部会の会場として繰り返し使われている。

支部会の目的は、卒論、修論などをまとめた学生たちに、学会発表の場所を提供することが第一、それに加えて他大学の学生との交流の機会を作ることだったと記憶している。そのために、各大学における論文発表の終わった時期の、3月初旬に支部会を開催することになって、その時期の開催が定着している。陸水学研究会の他流試合の場である。この二つの目的は、その後も変わらず具現されている。陸水学会に加入していない学生や院生もいること、地域の陸水に関心のある方々の参加も期待

して、本会の非会員も支部会の会員になることができ、発表の機会も与えられている。支部会費も通信費程度に留めた。

現在は印刷製本されて配布されている講演要旨は、最初は発表者が参加者数だけコピーを用意し、部屋の後の机に並べて、それを各参加者が一部ずつ集めてホッチキスでとめて、要旨集にしていた。このスタイルは、かなり最近まで続いていたと記憶している。

第1回支部会の講演会場の準備は、それほど大変ではなかった。しかし、今でも記憶に残るのは、懇親会の準備だった。学生も含む多くの方に参加してもらうために、元気な研究室の学生に手伝ってもらい手作りに徹した。近所のスーパーで購入した寿司コーナーの寿司とお総菜や乾きものをテーブルに並べた。格安の懇親会で、驚きの言葉も頂いた。

初代の会長は、手塚泰彦先生にお願いした。三田村さんは、その後しばらく世話役として、得意の黒子の役割を果たしていた。支部会のホームページの歴代開催地などの資料を見ると、当初の会場の世話をしてきたメンバーの多くは、すでに現役を引退し、世代の交代が進んだことを痛感している。卒論や修論をベースにした学生諸氏の発表は、内容も発表スキルも、それに調査研究器材も格段に進歩している。しかし、もう少し破天荒な発表や研究テーマが欲しいと思うのは、筆者の偏見であろうか。